

普及活動情勢報告（令和6年2月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

地域の農地を守り続けていくために ～地域計画策定座談会～



農家から聞き取りをする普及指導員

1月11、18、25日、中土佐町が久礼地区で地域計画策定のための座談会を開催し、農家20人と、町、JA、当課職員が参加しました。座談会では、地区ごとに分かれ、農振農用地の地図や中山間地域等直接支払の集落協定の地図等を見ながら、当課職員も地区の現状や課題などの聞き取りを実施しました。

農家からは「水稻以外の耕作が難しい地区で自前の設備や機械の老朽化が進んでいるが、機械類の共同利用については使用時期や管理運営の面から難しい」「土地集約後の所有権はどうなるのか」などの話がありました。

当課は、今後も管内の地域計画策定を支援していきます。

地域を支える集落営農組織の活動支援 ～宮谷営農組合瑞穂ファーム総会～



真剣に協議する参加者

1月28日、津野町で宮谷営農組合瑞穂ファームが総会を開催し、構成員9人、津野町職員2人、当課職員1人が参加しました。

当課は、機械更新費用の積立とオペレーターの所得向上に向けて、他組織の作業料金表を示し、作業料金の定期的な見直しを提案しました。

参加者からは、作業料金の定期的な見直しに否定的な意見はなく、組織活動の継続に意欲的な様子が見られました。

今後も、組織の活動が継続できるよう情報提供等の支援をしていきます。

夏秋ピーマン栽培管理技術のレベルアップ ～津野山地域ピーマン生産者勉強会～



勉強会の様子

2月5日、JA高知県津野山経済課で津野山地域の夏秋ピーマン勉強会を開催し、生産者6人、JA職員1人、当課職員1人が参加しました。

当課は、初期の栽培管理法や農薬の適正使用、環境データを活用した栽培管理改善について講義を行いました。

参加者からは、「土作りでたい肥を何トン入れればいいのか」「定植後の温度管理は天窓のみで行うのか」といった質問が出るなど、活発な意見交換が行われました。

今後も巡回等を通して生産状況を把握し、夏秋ピーマンの栽培技術向上のための情報を提供していきます。

米ナス青枯病対策 ～土壌還元処理と土壌くん蒸消毒を組み合わせた土壌病害対策の実証～



今後の処理について
打合せを行う普及指導員ら

2月8日、津野町米ナス農家ほ場で、農研機構、薬剤メーカーの協力のもと、低濃度エタノール土壌還元処理とダゾメット剤を用いた土壌くん蒸処理を組み合わせて、土壌処理を行う実証ほを設置しました。

米ナス栽培では青枯病対策が課題となっており、令和5年にクロルピクリン剤とダゾメット剤を併用した土壌消毒を行い、青枯病抑制効果を検証しましたが、十分な効果が得られませんでした。

そこで、令和6年作に向けて土壌くん蒸消毒を開始し、10日後に土壌還元処理を行う予定です。

実証農家からは、「青枯病に効果が出てほしい」「発病を減らし収量を伸ばせるように、しっかりと管理していきたい」との意見がありました。

当課は、作付後も生育状況を調査し、処理効果を検証していきます。

地域を支える集落営農組織の活動支援 ～ささば営農組合総会～



真剣に協議する参加者

2月16日、中土佐町でささば営農組合が総会を開催し、構成員9人、町職員2人、当課職員1人が参加しました。

当課は、開催を計画している水稻大規模耕作者講習会の開催日程に関する意向を確認するとともに、構成員から質問があった米の食味試験の方法や、他産地で栽培されている品種の特性等について情報提供を行いました。

総会終了後には、9人が持参した炊飯米の試食が実施されるなど、味への関心と高品質な米づくりへの高い意欲が感じられました。

今後も、組織の活動が継続できるよう情報提供等を実施していきます。